

平成26年度 病害虫発生予察情報
注意報 第3号

平成26年6月30日
発表：福島県病害虫防除所

斑点米カメムシ類が、水田畦畔で平年より多く確認されています。
適切な防除により、斑点米の発生を防ぎましょう。

- 1 対象作物：水稲
- 2 病害虫：斑点米カメムシ類
- 3 対象地域：県内全域
- 4 発生量：多い

予報の根拠

- (1) 6月下旬の水田畦畔すくい取り調査によると、斑点米カメムシ類の発生地点割合、発生程度の高い地点割合及びすくい取り数が例年を大きく上回った（図1～2）。斑点米カメムシ類の中では、アカスジカスミカメ（写真1）がカメムシ全体の8割を超えた（図3）。
- (2) 天候予報（6月26日発表1か月予報）によると、気温は平年並に推移すると予想されており、斑点米カメムシ類の活動が活発になると推測される。

防除対策

（出穂期前の管理）

- (1) イネ科雑草の穂は、カメムシ類にとって餌場であり産卵場所でもあるので、穂が出る前に畦畔や周辺の除草を徹底し、カメムシ類の密度を抑制する。
- (2) 畦畔の草刈りは、水稲の出穂前後に行うとカメムシ類を水田に追い込むことになるので、出穂10日前までに行う。
- (3) イネ科雑草のみならず、イヌホタルイ等のカヤツリグサ科雑草もアカスジカスミカメの繁殖源になるので、水田内の除草管理も徹底する。

（出穂期以降の防除対策）

- (4) カメムシ類は、水稲の出穂を契機に水田に侵入する。このため、出穂の早い水田に被害が集中しやすい。早生品種や移植時期の早いほ場では、カメムシ類の侵入や発生に注意する。出穂期以降、水田内でカメムシ類の発生が認められた場合は薬剤防除を行う。
なお、防除の目安は、乳熟期の水田内（畦畔際）のすくい取り調査（20回振り）で2～4頭である。
- (5) 散布剤による防除は、乳熟期（出穂期の7～10日後）を基本とし、その後も発生が見られる場合は7日おきに追加防除を行う。
また、割れ糲はカメムシによる吸汁を助長するので、割れ糲の発生しやすい品種にあっては、出穂20日後頃に追加散布する。その際は、薬剤の使用濃度、収穫前日数に十分注意する。
- (6) 水面施用剤を使用する場合は、穂揃期～乳熟期に湛水状態で散布し、その後多発が予想される場合は、散布剤により追加防除を行う。
- (7) ミツバチが飼養されている地域で薬剤防除を行う場合は、養蜂業者との連携を密にし、危被害の未然防止に努める。

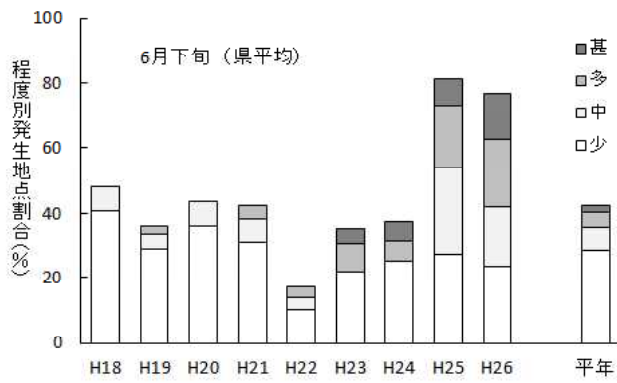


図1 水田畦畔における発生状況
(県内42箇所すくい取り調査、
6月下旬、20回振り当たり)
発生程度：少1～3頭、中4～10頭、多11～30頭、甚31頭以上

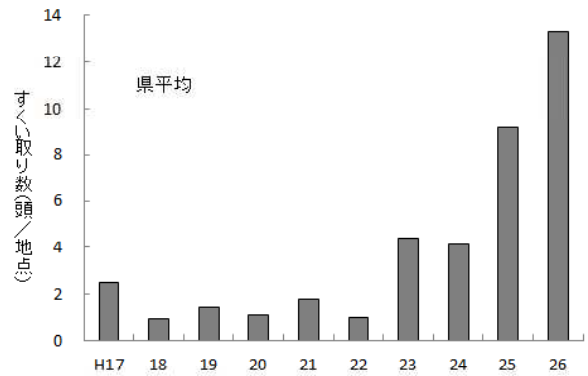


図2 すくい取り数の推移
(6月下旬、水田畦畔、20回振り当たり)

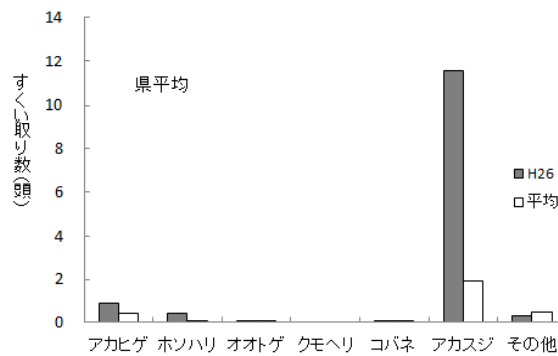


図3 斑点米カメムシ類の種別すくい取り数
(6月下旬、水田畦畔、20回振り)
(アカヒゲ：アカヒゲホソミドリカスミカメ、ホソハリ：ホソハリカメムシ、
オオトゲ：オオトゲシラホシカメムシ、クモヘリ：クモヘリカメムシ、
コバネ：コバネヒョウタンナガカメムシ、アカスジ：アカスジカスミカメの略)



体長 5mm程度

写真1 アカスジカスミカメ (福島県農業総合センター撮影)

- 情報内容への質問や要望は福島県農業総合センター安全農業推進部発生予察課 (病害虫防除所) までご連絡ください (TEL 024-958-1709、FAX 024-958-1727)。
- 本情報は、福島県病害虫防除所ホームページ (<http://www.pref.fukushima.jp/fappi/index.html>) でもご覧になれます。